

科目名：基礎医学 1

対象クラス(コース)：1学年 医療ビジネス 学科 (医療事務コース)

単位数：2単位

担当者名：矢崎美裕子

授業形態：講義

教材：読んでわかる解剖生理学、三訂医療用語、三訂医療秘書、医療秘書検定3級過去問題

教員の実務経験：

一般職（システム運用）5年間勤務。

医療機関において6年間勤務（うち2年間はドクターズクラーク兼院長秘書）

授業内容（実務経験を活かした指導内容）：

人体の身体の構造や働きを解剖生理学的見地から解説し、関連する医療用語も教授する。医療機関勤務経験を活かし、受付スタッフとしての接遇マナー、カルテを読むために必要な医学の基礎知識を教授する。

到達目標：

- (1) スタッフ部門職員が心得るべき医学知識の取得。
- (2) カルテが読めて理解できる。
- (3) 各種の医療情報が理解できる。
- (4) 生命の尊さを知り人間形成の一助とする。
- (5) 医学に関して興味を持ち、自ら調べる力をつける。

評価方法／基準：

定期テスト30% レポート20% 授業貢献度（出席、意欲・小テスト）50%

その他、注意事項：

連絡なしの欠席については、平常点から減点する。

病気等やむを得ない欠席だった場合は、欠席した分の課題を渡す。

課題の提出がない場合は、定期試験実施時に追加する。

関連する主な検定試験：

医療秘書技能検定 3級（11月）

キーワード：

解剖生理学、医療秘書概論、医療英語、医療漢字

<授業計画>

第1週	解剖生理学総論 医学用語1・医療秘書概論（医療秘書の資質と役割）
第2週	細胞と組織 医学用語2・医療秘書概論（医療提供の理念・日本の医療の歴史①）
第3週	骨格系（骨と筋肉） 医学用語3・医療秘書概論（日本の医療の歴史②）
第4週	循環器系1（脈管系と血液） 医学用語4・医療秘書概論（医療提供施設・病院の専門職）
第5週	循環器系2（心臓と血液） 医学用語5・医療秘書概論（病院組織①）
第6週	呼吸器系（解剖、生理 疾病） 医学用語6・医療秘書概論（病院組織②）
第7週	栄養学と消化器1（上部消化管） 医学用語7・医療秘書概論（各国の医療費の支払い①）
第8週	消化器2（下部消化管） 医学用語8・医療秘書概論（各国の医療費の支払い①）
第9週	消化器3（膵・胆管） 医学用語9・医療秘書概論（診療報酬の支払い方式①）
第10週	泌尿器（解剖と生理） 医学用語10・医療秘書概論（診療報酬の支払い方式②）
第11週	神経系1（中枢神経） 医学用語11・医療秘書概論（診療報酬の支払い方式③）
第12週	神経系2（末梢神経）/感覚器 医学用語12・医療秘書概論（現代医療）
第13週	内分泌系1（解剖生理/ホルモンの働き） 医学用語13・医療秘書概論（地域包括医療）
第14週	検定試験対策
第15週	総括

科目名：医療法規Ⅰ

対象クラス(コース)：1学年 医療ビジネス学科(医療事務コース)

単位数：2単位

担当教員名：矢崎美裕子

授業形態：講義

教材：最新 医療関連法の完全知識 2023年版、最新・医療事務入門 2023年版

教員の実務経験：

一般職(システム運用)5年間勤務。

医療機関において6年間勤務(うち2年間はドクターズクラーク兼院長秘書)

授業内容(実務経験を活かした指導内容)：

この講義は医療秘書検定3級「領域Ⅰ」、診療報酬請求事務能力認定試験に対応している。
医療機関勤務経験を生かし多職種協働の医療現場の実際と協働作業の一員として活動するための医療法規の概要、窓口対応に必要な知識を指導する。

到達目標：

- (1) 医療秘書検定3級合格に必要な知識の習得
- (2) 健康保険法について説明できる。
- (3) 医療法について説明できる。
- (4) 診療報酬の請求方法について説明できる。
- (5) その他各種法規について理解できる。

評価方法/基準：

定期テスト30% レポート20% 授業貢献度(出席、意欲・小テスト)50%

その他、注意事項：

連絡なしの欠席については、平常点から減点する。

病気等やむを得ない欠席だった場合は、欠席した分の課題を渡す。

課題の提出がない場合は、定期試験実施時に追加する。

関連する主な検定試験：

医療秘書検定3級、診療報酬請求事務能力認定試験

キーワード：

医療法、健康保険法、診療報酬請求、窓口対応

<授業計画>

第1週	医療事務とは 医事課と医療事務
第2週	接遇の基本 医療事務員の患者接遇
第3週	外来業務 (新患受付/再来受付)
第4週	入退院業務 (入院手続き/退院手続き/病床管理)
第5週	保険請求業務 (診療報酬とは/診療報酬点数表の基礎知識)
第6週	法規とは/法規の種類 医療法① (医療提供理念) (医療機関の種類と組織)
第7週	医療法② (医療機関の種類と組織)
第8週	医療保険に関する法規1 (医療保険制度)
第9週	医療保険に関する法規2 (医療保険の種類)
第10週	医療保険に関する法規3 (高額療養費制度、保険外併用療養)
第11週	保険診療に関する法規 (療養担当規則)
第12週	院内感染予防と感染症法
第13週	個人情報保護法
第14週	定期試験
第15週	総括

科目名：テクノロジー概論

対象クラス(コース)：1 学年 医療ビジネス学科 (IT/医療事務コース)

単位数：2

担当教員名：八巻 祐治

授業形態：講義

教材：令和 06 年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生の IT パスポート教室 (情報処理技術者試験)

教員の実務経験：社内システムサポート・Web サイト構築・CBT 実施/サポート 10 年

授業内容 (実務経験を活かした指導内容)：

資格試験 (IT パスポート試験) の内容に沿って、社内 (院内) システムの運用やサポート業務に就く上で必要となる基本的な ICT 技術を理解する。また、IT パスポート試験に出題された問題の解説もしながら、現場で遭遇する様々なトラブルや解決方法の実例を交えて講義する。

到達目標：

- (1) コンピュータシステムの内容が理解できる
- (2) トラブルシューティングの際に必要な基礎知識を習得する。
- (3) IT パスポート試験のテクノロジー分野が理解できる。

評価方法/基準：

期末テスト及び出席状況と授業態度により総合評価する。

総合評価 80 点以上・・・A 評価

総合評価 70 点以上・・・B 評価

総合評価 50 点以上・・・C 評価

以上以外はすべて D 評価とする。

その他、注意事項：

IT パスポート試験の受験に関しては、前期の当該授業ではテクノロジー分野のみの講義であり、後期に予定している「ストラテジ概論」受講後を推奨する。

関連する主な検定試験：

IT パスポート試験

キーワード：

IT パスポート試験、ICT テクノロジー

<授業計画>

第1週	ハードウェア 1
第2週	ハードウェア 2
第3週	ソフトウェア 1
第4週	ソフトウェア 2
第5週	システム構成 1
第6週	システム構成 2
第7週	ネットワーク 1
第8週	ネットワーク 2
第9週	ネットワーク 3
第10週	セキュリティ 1
第11週	セキュリティ 2
第12週	データベース 1
第13週	データベース 2
第14週	アルゴリズムとプログラミング
第15週	期末試験 まとめ

科目名：ネットワーク基礎演習 1

対象クラス(コース)：1 学年 医療ビジネス学科 (IT コース)

単位数：2

担当教員名：片寄隆典

授業形態：座学と演習

教材：シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集

教員の実務経験：Web サイト/Web ベースシステムの開発に 20 年従事

授業内容（実務経験を活かした指導内容）：

小中規模のネットワークにおけるスイッチおよびルータの基本設定を、実機やネットワークシミュレータを用いた演習を行いつつ学ぶ。

到達目標：

- (1) ネットワークに関する基礎知識を身につける
- (2) IOS の基本的な操作方法を身につける

評価方法／基準：

講義中に適宜出題される演習課題および期末試験の結果によって評価する。

達成度 80%以上を A、70%以上を B、50%以上を C とする。60%未満は評価 D とする。

その他、注意事項：

- ・演習ではノート PC を使用するので、講義時には忘れずに用意すること
- ・単に講義を聞いてさえいれば知識や技術が身につくというものではない。各自で復習・演習を怠らないこと。

関連する主な検定試験：

CCNA、ネットワークスペシャリスト

キーワード：

<授業計画>

第1週	概要と前提知識の確認
第2週	ネットワーク基礎
第3週	ネットワーク基礎 (演習)
第4週	イーサネット
第5週	イーサネット (演習)
第6週	TCP/IP
第7週	TCP/IP (演習)
第8週	IPv4アドレスとサブネット
第9週	IPv4アドレスとサブネット (演習)
第10週	Cisco IOSソフトウェアの操作
第11週	Cisco IOSソフトウェアの操作 (演習)
第12週	Cisco IOSソフトウェアの操作 (実践演習)
第13週	総合演習
第14週	総合演習
第15週	まとめ

科目名：プログラム演習 1

対象クラス(コース)：1 学年 医療ビジネス 学科 (IT コース-開発系)

単位数：2

担当教員名：勝場 恵一

授業形態：講義と演習

教材：新・標準プログラマーズライブラリ なるほどなっとく C#入門
Visual Studio 2022

教員の実務経験：

システムエンジニアとして C++、C# を使用しソフト開発、保守など 3 年
新入社員教育として、C++、JAVA を教育 3 年

授業内容（実務経験を活かした指導内容）：

C# の文法及び構造化プログラミングを学ぶ授業。C# はアプリケーション開発及び学習の容易さが特徴としてある言語である。C# では GUI アプリや Web アプリ、ゲーム制作等多岐にわたる開発が可能のため、習得後さまざまな用途で使用が可能である。

この授業では、どの言語でも実装されているような基本的な機能の習得を目的とする。

到達目標：

- (1) プログラムがどのように動作するか理解する。
- (2) C# による構造化プログラミングを理解する。
- (3) アルゴリズムを応用し、目的のプログラムを実装できる。

評価方法／基準：

期末テスト及び出席状況と授業態度により総合的に評価する。総合評価が 100～80 点は A、79～70 点は B、69～60 点は C、60 点未満は D とする。

その他、注意事項：

関連する主な検定試験：IT パスポート試験、基本情報技術者試験、その他 IT 試験

キーワード：

C#、オブジェクト指向、プログラミング、クラスライブラリ

<授業計画>

第1週	開発環境の構築 C#とは
第2週	講義 演算と変数
第3週	演習 演算と変数1
第4週	演習 演算と変数2
第5週	講義 条件分岐
第6週	演習 条件分岐1
第7週	演習 条件分岐2
第8週	講義 繰り返し処理
第9週	演習 繰り返し処理1
第10週	演習 繰り返し処理2
第11週	講義 繰り返し処理(2重ループ)
第12週	演習 繰り返し処理(2重ループ)
第13週	演習 繰り返し処理(2重ループ)
第14週	期末試験
第15週	期末試験解説

科目名：ソフトウェア演習（MOS）1

対象クラス(コース)：1学年 医療ビジネス学科（医療事務・ITコース）

単位数：2

担当教員名：田中 直也

授業形態：講義と演習

教材：MOS 攻略問題集ワード・パワポ、30時間でマスターワード・パワポ

教員の実務経験：ゲーム・アニメ制作などのコンピューター業務、様々なソフトを使用し25年間勤務

授業内容（実務経験を活かした指導内容）：

基本操作を学習しながら、実務で活用するための演習を行う。

Word および PowerPoint 2019 Specialist の利用能力を証明する MOS 試験の出題範囲の操作や機能を学習する

到達目標：

- (1) パソコンのフォルダ構成などの基本を覚える。
- (2) MOS 試験 Word 2019 Specialist 合格
- (3) MOS 試験 PowerPoint 2019 Specialist 合格

評価方法／基準：MOS 試験、模擬テストの結果、学習態度の評価の総合評価

A：総合評価が80点以上

B：総合評価が70点以上

C：総合評価が60点以上

D：上記以外

その他、注意事項：

最低限の仕様を満足しない提出物については、仕様を満足するまで再提出が要求される。

関連する主な検定試験：MOS 試験

キーワード：ビジネス文書

<授業計画>

第1週	学習環境の準備 パソコンのフォルダの構成など。
第2週	30時間でマスターWord2019 教科書1・2章
第3週	教科書3章 文書の作成① Mos模試ソフト練習
第4週	教科書3章 文書の作成② 試験対策
第5週	教科書4章 ワードの活用① 試験対策
第6週	教科書4章 ワードの活用② 試験対策
第7週	教科書5章 ワードの活用2① 試験対策
第8週	教科書5章 ワードの活用2② 試験対策
第9週	教科書5章 ワードの活用2③ 試験対策
第10週	教科書6章 ワードの応用 試験対策
第11週	教科書7章 ワードによるプレゼンテーション 試験対策
第12週	Mos試験 (Word)
第13週	30時間でマスターPowerPoint2019 教科書3章① 試験対策
第14週	教科書3章② 試験対策
第15週	教科書4章 試験対策

科目名：宿泊サービス 2

対象クラス(コース)：2 学年 観光 学科 (ホテル・ブライダルコース)

単位数：1

担当教員名：川村 仁

授業形態：講義、演習

教材：ホテルビジネス基礎編

教員の実務経験：約 10 年間サービス業に従事

授業内容（実務経験を活かした指導内容）：

就職活動の企業研究を踏まえて、各企業のターゲット層やニーズを調べながら共有していく。また雇用形態の種類も様々あるため働き方を客観的に理解できるように用語をわかりやすく整理して落とし込んでいく。

到達目標：

- (1) ホテルのセールスポイントを把握することで企業の理解を深める。
- (2) 各ホテルに課題があり、その課題を解決するために必要な知識を習得する。
- (3) 人材不足の中でのスタンダードオペレーションを構築できるようになる。
- (4) 繁忙期と閑散期を料金形態から紐解き理解する。
- (5) 周辺環境に左右される条件を考慮して料金がどのように推移しているかを理解する。

評価方法／基準：

小テスト及び期末試験にて採点を行う。

目標の 8 割程度以上を A、7 割程度を B、6 割程度を C、それ未満を D とする。

その他、注意事項：

授業態度、提出物の期限、出席率も加味して評価を行う。

関連する主な検定試験：なし

キーワード：

宿泊、ホテル

<授業計画>

第1週	オリエンテーション
第2週	観光業とホテル業
第3週	各種プランの調査①
第4週	各種プランの調査②
第5週	各種プランの調査③
第6週	リゾートホテルとシティホテルの繁忙期
第7週	シティホテルの料金形態について
第8週	テーマパークホテルについて
第9週	日本ならではのおもてなしについて
第10週	旅館の強みと改善点
第11週	全国のイベント①
第12週	全国のイベント②
第13週	全国のイベント③
第14週	まとめ
第15週	総復習

科目名：F&B 演習 1

対象クラス(コース)：2 学年 ____ 観光 ____ 学科 (ホテル・ブライダルコース)

単位数：1

担当教員名：川村 仁

授業形態：講義、演習

教材：飲料メニュー基礎 (日本ホテル教育センター)

教員の実務経験：約 10 年間、ホテルにて勤務。フルサービス型ホテル、リゾートホテル、宿泊特化型ホテル、コンベンションホテルを経験。

授業内容 (実務経験を活かした指導内容)：

料飲 (飲料) はゲストとのコミュニケーションの機会、対話等に重要な役割でもあり、食文化との深い繋がりを学ぶ。サービスマンのプロとして「レストランサービス技能検定」3 級学科試験対策やソムリエ学科試験、バーテンダー (HBA) 学科試験対策講座の一助とする。

到達目標：

- (1) 「レストランサービス技能検定」3 級の学科試験の合格を目指す。
- (2) 飲料全般アルコール類の種類を理解する。
- (3) 各国のワインの産地、品種、種類、名称、特色、銘柄を把握する。
- (4) 料理と飲料の調和などを理解する。
- (5) ホテルビジネス試験 (ベーシックレベル) の一助。

評価方法 / 基準：

目標の 8 割程度以上を A、7 割程度を B、6 割程度を C、それ未満は D を基本とし、授業態度、小テスト結果および出席時数も加味して評価とする。

その他、注意事項：

授業態度、確認テスト結果 (manaba) および出席時数も加味して評価とする。

関連する主な検定試験：なし

キーワード：

<授業計画>

第1週	オリエンテーション
第2週	酒類飲料概論
第3週	ワイン総論
第4週	ワイン概論（フランス・ボルドー）
第5週	ワイン概論（フランス・ブルゴーニュ）
第6週	ワイン概論（フランス・シャンパーニュ）
第7週	ワイン概論（フランス・その他の著名な産地）
第8週	ワイン概論（イタリア・北部）
第9週	ワイン概論（イタリア・中部）
第10週	ワイン概論（イタリア・南部）
第11週	ワイン概論（ドイツ・モーゼル川流域）
第12週	ワイン概論（スペイン・リオハ、プリオラート、シェリー）
第13週	ワイン概論（ポルトガル・ポート、マデイラ）
第14週	まとめ
第15週	総復習

科目名：観光マーケティング

対象クラス(コース)：2学年 観光 学科 (ホテル・ブライダルコース)

単位数： 1

担当教員名： 川崎

授業形態： 講義・実習

教材： 観光学基礎・旅地図日本

教員の実務経験：旅行会社勤務経験

授業内容(実務経験を活かした指導内容)：観光地の魅力を探る。観光の特色を学ぶ。
観光業界ニュースを通して、問題と課題を共有する。

到達目標：

- (1) 行きたくなる観光地の魅力について考える。
- (2) 人気観光地の継続に向けた取り組み・工夫を探る。
- (3) 観光地で今起きていること・課題について考える。
- (4) 日本各地の観光地・季節ごとの観光を学ぶ。

評価方法／基準：

1. 出席率と取り組み姿勢・態度 20%
2. 提出物の評価と管理保管状況 20%
3. 課題・発表・期末確認の結果 60%

その他、注意事項： 授業の目的を理解し、積極的に参加しよう。

関連する主な検定試験： 特になし

キーワード：楽しみながら観光を学ぼう

<授業計画>

第1週	授業の進め方と注意点・シラバス・教材の確認 今後の予定
第2週	*観光ニュース共有 季節と観光・旅地図で観光地を学ぶ
第3週	季節と観光・旅地図で観光地を学ぶ
第4週	実習①について（実施計画）
第5週	実習①
第6週	実習①発表と振り返り
第7週	予備日
第8週	実習②について（実施計画）
第9週	実習②発表と振り返り
第10週	予備・これまでの実習結果を振り返り
第11週	観光業界ニュース共有 様々な観光資源
第12週	個人課題
第13週	個人課題
第14週	期末学習確認
第15週	まとめ

科目名：ホテル英語 1

対象クラス(コース)：2学年 観光学科(ホテル・ブライダルコース)

単位数：1

担当教員名：上田 裕子

授業形態：講義・演習・課題・Speaking 実践

教材：テキスト(ホテル英会話 I 及び観光英検 3 級の精選過去問題) 及び
オリジナルプリント

教員の実務経験：文学部英米文学科卒業。ワタベウエディングにて海外及び国内担当ブライダルプランナーとし勤務。その後、BIA ブライダルマネジャー及びブライダルコーディネーター、ウエディングスペシャリスト資格取得。2023 年ロンドンの大学にて LUXURY BRAND MANAGEMENT コース修了。

授業内容(実務経験を活かした指導内容)：

テキストを通してホテル、飲食、宿泊、その他サービスに関する英単語・英語表現・接客英語・敬語表現を学習し、各場面を想定しての実際の英会話での応対に対応できるように指導する。観光英語検定 3 級合格を目指す。

到達目標：

- (1) ホテル用語の英単語の習得
- (2) 就職に必要なホテルでの基本的な英会話の習得
- (3) リスニング演習によるリスニング力の向上
- (4) 単語テストによるライティング能力の向上
- (5) 精選問題実践により観光英語 3 級合格

評価方法/基準：

出席状況・スピーキングテスト・期末テストの点数による総合評価。

総合評価 80 点以上・・・A 評価, 総合評価 70 点以上・・・B 評価,

総合評価 60 点以上・・・C 評価, それ未満を D 評価とする。

その他、注意事項：観光英語検定 3 級以上の合格を目標とする。

関連する主な検定試験：観光英語検定 3 級

キーワード：エアライン・ホテル・レストラン・ショッピング・交通機関・観光・旅行・通信・銀行・娯楽・レジャー・医療・通貨単位・世界遺産・自然資源・伝統工芸・郷土芸能・祭り・年中行事

<授業計画>

第1週	ホテル英会話 LESSON 5 Dialogue 4 City information 和訳&speaking練習
第2週	ホテル英会話 LESSON 5 EXERCISE 単語プリントNo. 1
第3週	ホテル英会話 LESSON 6 Useful Phrases&Vocabulary 単語プリントNo. 2
第4週	ホテル英会話 LESSON 6 Dialogue 6 Guest departure 和訳&speaking練習
第5週	ホテル英会話 LESSON 6 EXERCISE
第6週	ホテル英会話 LESSON 6 speaking練習 単語プリントNo. 1テスト
第7週	検定過去問題3級 第1回精選過去問題筆記 試験
第8週	検定過去問題3級 第1回精選過去問題筆記 試験 解答解説
第9週	検定過去問題3級 第1回精選過去問題リスニング 試験
第10週	検定過去問題3級 第1回精選過去問題リスニング 試験 解答解説
第11週	ホテル英会話 LESSON 7 Useful Phrases&Vocabulary
第12週	ホテル英会話 LESSON 7 Dialogue 1 When the guest deposits items 和訳&speaking練習
第13週	総復習・前期重要事項ポイント解説
第14週	まとめ
第15週	検定試験対策 重要事項ポイント解説 単語プリント No. 2 テスト

科目名：映像編集演習

対象クラス(コース)：2学年 観光学科 (ホテル・ブライダル)

単位数：1

担当教員名：田中 直也

授業形態：講義と演習

教員の実務経験：

コンピューター業務、様々なソフトを使用し25年間勤務

授業内容（実務経験を活かした指導内容）：

ワード、エクセルを使用して簡単なPOPなどの印刷物の制作を学習する。

テレビアニメ、アニメ映画の製作経験より、パワーポイント、ビデオエディターの基本操作を覚え、映像編集の感覚を身につける

到達目標：

- (1) ワード、エクセルを使用して簡単なPOPなどの印刷物の制作できるようになる。
- (2) パワーポイント、スマホを使って編集ソフトの基本操作を覚える。

評価方法／基準：データ提出、学習態度の評価の総合評価

- A：総合評価が80点以上
- B：総合評価が70点以上
- C：総合評価が60点以上
- D：上記以外

その他、注意事項：

最低限の仕様を満足しない提出物については、仕様を満足するまで再提出が要求される。

関連する主な検定試験：

MOS スペシャリスト (エクセル)

キーワード：自己紹介

clipstudio 編集 photopea

<授業計画>

第1週	学習環境の準備① 提出フォルダの説明など
第2週	学習環境の準備②
第3週	MOS試験対策① (Excel)
第4週	MOS試験対策②
第5週	MOS試験対策③
第6週	MOS試験
第7週	静止画を使用しパワーポイントで動画制作①
第8週	静止画を使用しパワーポイントで動画制作②
第9週	静止画を使用しパワーポイントで動画制作③
第10週	講評①
第11週	講評②
第12週	動画素材撮影 スマホからPCへのデータ移行など
第13週	PCでの音楽、動画の形式、取り扱いなど
第14週	スマホで動画編集①
第15週	スマホで動画編集②

科目名：ブライダルプランニング

対象クラス(コース)：2学年 観光学科（ホテル・ブライダルコース）

単位数：1

担当教員名：川脇由美子

授業形態：講義、グループワーク

教材：日本のウエディングプランナー育成プログラム付録冊子

教員の実務経験：川脇（美容学科教員、ブライダルコーディネーター）

授業内容（実務経験を活かした指導内容）：ブライダルプランニングの基礎からブライダルビジネスに関する内容を学習する。

到達目標：

- (1) プランナーの仕事を理解し、パートナー企業との連携を学ぶ。
- (2) ブライダルプランニングを習得し課題を作成する。
- (3) 新規接客からアテンドまでをロールプレイで学ぶ

評価方法／基準：出席状況、ロールプレイ評価表、課題提出より総合評価する。

ウエディングプランナーロールプレイ評価表 5段階評価 ABC

上記以外はすべてD評価とする。

その他、注意事項：課題提出期限厳守。

関連する主な検定試験：

ブライダルコーディネーター技能検定

キーワード：

ブライダルプランナー、ブライダルコーディネーター、結婚式、フラワーアイテム
婚礼衣装

<授業計画>

第1週	シラバス ケーススタディ プランニングシート作成
第2週	挙式・披露宴のヒアリング ヒアリングシートの作成
第3週	参考見積書の作成
第4週	プランニングシート作成 課題①
第5週	新規接客ロールプレイ
第6週	新規接客ロールプレイ
第7週	成約手続き
第8週	打合せの流れ、当日までのスケジュール
第9週	招待状、席次表
第10週	招待状・席次表の説明ロールプレイ
第11週	婚礼写真・婚礼飲料の説明
第12週	進行表の作成 課題②
第13週	進行表の作成 課題②
第14週	挙式リハーサル
第15週	アテンドロールプレイ まとめ

科目名：生活支援技術Ⅱ

対象クラス(コース)：1 学年 介護福祉学科

単位数：3

担当教員名：高松浩之、天野光代、美濃口えりか、武石稔弘

授業形態：講義・演習（全 45 回）

教材：最新介護福祉士養成講座 6・7 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 第2版 中央法規出版株式会社 ※配布資料・スマートフォン・タブレット端末を使用する場合があります。

教員の実務経験：介護保険施設・事業所、障害者支援施設等で、介護福祉職の経験を有する。

授業内容（実務経験を活かした指導内容）

生活支援の理解、休息・睡眠の介護、自立に向けた移動の介護、自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、福祉用具の意義
ねらい

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。

到達目標

- (1) ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援につながる。
- (2) 対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。
- (3) 健康を維持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援につながる。
- (4) 介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得する。

評価方法／基準

期末試験、実技試験、効果測定、確認テスト、出席、授業態度等を総合的に評価する。

期末試験 30%、実技試験 30%、効果測定 10%、確認テスト 10%、出席 10%、授業態度 10%

※ 期末試験（筆記試験）は 60 点以上を合格とする。

※ 教員があらかじめ指示した身だしなみ（ユニフォーム、靴、髪型、エプロン、三角巾等）を整えなかった場合、その授業は見学での参加とし、授業態度から減点する。

※ 授業開始後に授業に必要な物（教科書、タブレット、介護実習の手引き等）を用

意するために退室した場合、身だしなみ（ユニフォーム、靴、髪型、エプロン、三角巾等）を整えるために退室した場合には授業態度から減点する。

その他、注意事項

質の高い学習とするために、以下の点について留意する。

- 1 事前学習
毎回の授業前に、授業範囲のページを確認する。
- 2 事後学習
毎回の授業内容・確認テストを再確認（復習）し、理解を深める。
- 3 課題やレポートは期日までに提出する。
- 4 遅刻、欠席、早退をする場合は、事前に連絡する。

関連する主な検定試験：介護福祉士国家試験

キーワード：生活支援、介護過程、チームアプローチ、多職種、自立、休息、睡眠、移動、身じたく、入浴、清潔保持、福祉用具

<授業計画>

第1回	生活支援の理解 生活支援の基本的な考え方【講義】
第2回	生活支援の理解 生活支援の基本的な考え方【講義】
第3回	生活支援の理解 生活支援と介護過程【講義】
第4回	生活支援の理解 生活支援とチームアプローチ【講義】
第5回	第1回～第4回【確認テスト】、休息睡眠の介護 休息・睡眠とは【講義】
第6回	休息・睡眠の介護 休息・睡眠の介護における多職種との連携【講義】
第7回	第5回～第6回【確認テスト】、休息・睡眠の介護【演習】
第8回	休息・睡眠の介護【演習】
第9回	休息・睡眠の介護【演習】
第10回	休息・睡眠の介護【演習】
第11回	休息・睡眠の介護【効果測定】
第12回	まとめ【筆記試験・解説】
第13回	自立に向けた移動の介護 自立した移動とは【講義】
第14回	自立に向けた移動の介護 移動の介護における多職種との連携【講義】
第15回	第13回～第14回【確認テスト】、自立に向けた移動の介護【演習】
第16回	自立に向けた移動の介護【演習】
第17回	自立に向けた移動の介護【演習】
第18回	自立に向けた移動の介護【演習】
第19回	自立に向けた移動の介護【演習】
第20回	自立に向けた移動の介護【演習】

第21回	自立に向けた移動の介護【演習】
第22回	自立に向けた移動の介護【効果測定】
第23回	自立に向けた身じたくの介護 自立した身じたくとは【講義】
第24回	自立に向けた身じたくの介護 身じたくの介護における多職種との連携【講義】
第25回	第23回～第24回【確認テスト】、自立に向けた身じたくの介護【演習】
第26回	自立に向けた身じたくの介護【演習】
第27回	自立に向けた身じたくの介護【演習】
第28回	自立に向けた身じたくの介護【演習】
第29回	自立に向けた身じたくの介護【演習】
第30回	自立に向けた身じたくの介護【効果測定】
第31回	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 自立した入浴とは【講義】
第32回	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴の介護における多職種との連携【講義】
第33回	第31回～第32回【確認テスト】、自立に向けた入浴・清潔保持の介護【演習】
第34回	自立に向けた入浴・清潔保持の介護【演習】
第35回	自立に向けた入浴・清潔保持の介護【演習】
第36回	自立に向けた入浴・清潔保持の介護【演習】
第37回	自立に向けた入浴・清潔保持の介護【演習】
第38回	自立に向けた入浴・清潔保持の介護【効果測定】
第39回	福祉用具の意義 生活支援における福祉用具の重要性【講義】
第40回	福祉用具の意義 福祉用具の種類 適切な福祉用具を選ぶための視点【講義】
第41回	第39回～第40回【確認テスト】、まとめ【演習】
第42回	まとめ【演習】
第43回	まとめ【実技試験】
第44回	まとめ【実技試験・振り返り】
第45回	まとめ【筆記試験・解説】

※ 授業計画は状況により変更する場合がある。

科目名：人間関係とコミュニケーションⅠ

対象クラス(専攻/コース)：1学年 介護福祉学科(人間と社会)

単位数：1

担当教員名：上條 雅巳

授業形態：講義

教材：最新介護福祉士養成講座2 人間の理解(第2版) 中央法規出版株式会社

※配布資料・スマートフォン・タブレット端末なども活用する。

教員の実務経験：介護付き有料老人ホーム・介護老人保健施設にて介護職・支援相談員として
13年間経験

ねらい ①対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。

授業内容 ①人間関係の形成とコミュニケーションの基礎

到達目標：

- (1) 人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解する

評価方法/基準：

授業態度(出欠席・姿勢・提出物・使用物品の準備など)、確認テスト・総まとめ試験などの結果を総合的に評価する。(総まとめ試験70% 確認テスト10% 授業態度20%)

※総まとめ試験は60点以上を合格とする。

その他、注意事項：

授業を円滑に行うと共に質の高い学習とするために、以下の点について留意する。

1、事前学習

毎回の授業前に、授業範囲のページに目を通しておくこと。課題が出た場合は課題を行っておく。

2、事後学習

毎回の授業内容・確認テストを再確認(復習)し、理解を深めておく。

課題やレポートの提出を指示した場合は、作成し指定期間までに提出する。

関連する主な検定試験：介護福祉士国家試験

キーワード：自己理解・他者理解、発達心理学、認知、集団、ストレス、ソーシャルサポート
コミュニケーション、バイステックの7原則、組織

<授業計画>

第1回	人間と人間関係1 (テキストP80～84)	講義
第2回	人間と人間関係2 (テキストP84～89)	講義
第3回	人間と人間関係3 (テキストP89～95)	講義・演習
第4回	発達心理学からみた人間関係1 (テキストP95～96)	講義・確認テスト
第5回	発達心理学からみた人間関係2 (テキストP96～99)	講義
第6回	発達心理学からみた人間関係3 (テキストP99～102)	講義
第7回	社会心理学からみた人間関係1 (テキストP102～106)	講義・確認テスト
第8回	社会心理学からみた人間関係2 (テキストP106～113)	講義
第9回	人間関係とストレス (テキストP113～120)	講義・演習
第10回	対人関係におけるコミュニケーション1 (テキストP122～128)	講義・確認テスト
第11回	対人関係におけるコミュニケーション2 (テキストP128～140)	講義・演習
第12回	対人援助関係とコミュニケーション1 (テキストP142～149)	講義
第13回	対人援助関係とコミュニケーション1 (テキストP150～161)	講義
第14回	組織におけるコミュニケーション (テキストP163～175)	講義・演習・確認テスト
第15回	総まとめテスト (第1回～14回までの内容)	試験・解説

(注釈)

授業計画については、状況により変更する場合があります。

科目名：介護過程Ⅰ

対象クラス(コース)：1学年 介護福祉学科

単位数：2

担当教員名：天野光代、美濃口えりか

授業形態：講義・演習(全30回)

教材：最新介護福祉士養成講座 9 介護過程 第2版 中央法規出版株式会社
※配布資料・スマートフォン・タブレット端末なども活用する。

教員の実務経験：介護福祉職(介護福祉士)の経験を有する。

授業内容(実務経験を活かした指導内容)：介護過程の意義と基礎的理解、介護過程とチームアプローチ、介護過程の展開の理解

ねらい

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。

到達目標

- (1) 介護実践における介護過程の意義の理解を踏まえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する。
- (2) 介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する。
- (3) 個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につながる。

評価方法/基準

授業態度(出欠席・姿勢・提出物等)、確認テスト・期末試験などの結果を総合的に評価する。

期末試験 40%、確認テスト・演習 40%、出席 10%、授業態度 10%

※ 期末試験は60点以上を合格とする。

※ 授業開始後に授業に必要な物(教科書、タブレット、介護実習の手引き等)を用意するために退室した場合は授業態度から減点する。

その他、注意事項

- 1 事前学習
毎回の授業前に、授業範囲のページを確認する。課題が出た場合は課題を行う。
- 2 事後学習
毎回の授業内容・確認テストを再確認(復習)し、理解を深める。
- 3 課題やレポートの提出を指示された場合は、作成し指定期間までに提出する。
- 4 遅刻、欠席、早退をする場合は事前に連絡する。

関連する主な検定試験：介護福祉士国家試験

キーワード：介護過程、事例検討、ケーススタディ、事例研究、アセスメント、解釈・関連づけ・統合化、介護計画、実施、評価

<授業計画>

第1回	介護過程とは テキスト：P2～9	講義
第2回	介護過程とは テキスト：P2～9	講義
第3回	介護過程とは テキスト：P2～9	講義
第4回	介護過程とは テキスト：P9～16	講義
第5回	介護過程とは テキスト：P9～16	講義
第6回	介護過程とは テキスト：P9～16	講義
第7回	介護過程とは（アセスメント疑似体験） テキスト：P16～22	講義・演習
第8回	介護過程とは（アセスメント疑似体験） テキスト：P16～22	講義・演習
第9回	介護過程とは（アセスメント疑似体験） テキスト：P16～22	講義・演習
第10回	介護過程における事例検討・事例研究の必要性1 テキスト：P25～32	講義・確認テスト
第11回	介護過程における事例検討・事例研究の必要性2 事例検討会の演習	演習
第12回	介護過程における事例検討・事例研究の必要性3 事例研究（ケーススタディ）の演習	演習
第13回	介護過程の展開 テキストP34～37	講義
第14回	介護過程の展開 テキストP34～37	講義
第15回	介護過程の展開 テキストP34～37	講義・確認テスト
第16回	アセスメント（情報収集） テキスト：P38～45	講義・演習
第17回	アセスメント（情報収集） テキスト：P38～45	講義・演習
第18回	アセスメント（情報収集） テキスト：P38～45	講義・演習
第19回	アセスメント（情報収集） テキスト：P38～45	講義・演習
第20回	アセスメント（解釈・関連づけ・統合化） テキスト：P48～55	講義
第21回	アセスメント（解釈・関連づけ・統合化） テキスト：P48～55	講義

第22回	アセスメント（解釈・関連づけ・統合化）	テキスト：P55～61	講義
第23回	アセスメント（解釈・関連づけ・統合化）	テキスト：P55～61	講義
第24回	アセスメント（解釈・関連づけ・統合化） 情報の解釈の演習①		演習
第25回	アセスメント（解釈・関連づけ・統合化） 情報の解釈の演習②		演習
第26回	アセスメント（解釈・関連づけ・統合化） 情報の解釈の演習③		演習
第27回	アセスメント（解釈・関連づけ・統合化） 情報の解釈の演習④		演習
第28回	アセスメント（解釈・関連づけ・統合化） 情報の解釈の演習⑤		演習
第29回	まとめ（第1回～28回の内容）		講義
第30回	総まとめ（第1回～28回までの内容）		試験・解説

※授業計画は状況より変更する場合がある。

科目名：こころとからだのしくみⅠ

対象クラス(専攻/コース)：1学年 介護福祉学科(こころとからだのしくみ)

単位数：1

担当教員名：津田新菜

授業形態：講義・演習(全15回)

教材：最新介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 第2版 中央法規出版株式会社 ※授業資料・タブレット端末なども活用する。

教員の実務経験：総合病院、専門病院(小児、循環器・呼吸器、精神)、地域医療連携室、看護師養成校、老健施設での経験を有する。

授業内容(実務経験を活かした指導内容)：

施設及び病院内に於ける療養者への支援等の経験を活かして、こころとからだのしくみを理解し、介護を必要とする人の生活支援を行うため、下記の学習目標が達成できるように授業を展開していく。

ねらい 介護を必要とする人の生活の支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。

到達目標：

- (1) 介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。
- (2) 生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下野障害が生活に及ぼす影響について理解する。

評価方法/基準：

授業態度(出欠席、授業への準備姿勢(テキストの持参、タブレットの充電等)、参加態度、課題への取り組み、使用物品の準備・片付け、期限内の提出など、授業中にスマートフォンは使用しない・授業以外の動画等は視聴しない)、確認テスト・総まとめ試験等の結果を総合的に評価する。

評価：(総まとめ試験 70% 確認テスト 10% 授業態度 20%)

※欠席等で確認テストが受けられなかった場合、次の授業までの期間に、自ら再試験の希望申請があった場合に実施する

※総まとめ試験は60点以上を合格とする。(国家試験合格の確実性を高める為には、80%以上の正答率が必要であり常に80点以上を目標に学習に取り組むこと)

※課題やレポートの提出を指示した場合は、指定期日までに実施し、提出すること。

その他、注意事項：

授業を円滑に行うとともに質の高い学習とするために、以下の点について留意すること。

1. 事前学習：毎回の授業前に、授業資料・授業範囲のテキストのページに目を通しておくこと。

2. 事後学習：毎回の授業内容・確認テストを再確認（復習）し、理解を深めておくこと。

関連する主な検定試験：介護福祉士国家試験

キーワード：健康、人間の欲求、自己実現、身体各部の名称と機能、こころのしくみ、からだのしくみ

<授業計画>

第1回	「健康」とは何か（テキストP2～12）	講義
第2回	人間の欲求、自己実現と尊厳（テキストP14～23）	講義
第3回	こころのしくみの基礎1：脳のしくみ、認知のしくみ他 （テキストP24～32）	確認テスト①・講義
第4回	こころのしくみの基礎2：感情、意欲、適応のしくみ他 （テキストP32～38）	講義
第5回	からだのつくりの理解：身体各部の名称 （テキストP42～49）	確認テスト②・講義
第6回	からだのつくりの理解：細胞、組織、器官・器官系 （テキストP46～80）	講義
第7回	脳・神経・内分泌 （テキストP49～53、71～72、74～77）	確認テスト③・講義
第8回	感覚器（テキストP53～56）	講義
第9回	呼吸器（テキストP56～58）	確認テスト④・講義
第10回	循環器、血液・体液・リンパ液（テキストP58～60、78～80）	講義
第11回	消化器（テキストP60～63）	確認テスト⑤・講義
第12回	泌尿器、生殖器（テキストP63～64、72～74、78）	講義
第13回	骨、筋肉、関節（テキストP65～70）	確認テスト⑥・講義
第14回	生命を維持するしくみ、第1回～13回までのまとめ （テキストP81～86、2～80）	講義
第15回	総まとめ（第1回～14回までの内容）	試験・解説

(注釈)

- ◆ manaba（学習システム）を活用しての学習を実施していく。
- ◆ 授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより変更する場合があります。

科目名：介護の基本Ⅰ

対象クラス(コース)：1学年 介護福祉学科

単位数：1

担当教員名：高松浩之

授業形態：講義（全15回）

教材：最新介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ 第2版 中央法規出版株式会社 ※配布資料・スマートフォン・タブレット端末を使用する場合がある。

教員の実務経験：介護福祉職（介護福祉士）としての経験を有する。

授業内容（実務経験を活かした指導内容）：介護福祉の基本となる理念、介護福祉士の役割と機能

ねらい：介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。

到達目標

- (1) 複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。
- (2) 地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解する。

評価方法／基準

期末試験、確認テスト、出席、授業態度、提出物等を総合的に評価する。

期末試験 60%、確認テスト 20%、出席 10%、授業態度 10%

※期末試験は60点以上を合格とする。

※ 授業開始後に授業に必要な物（教科書、タブレット、介護実習の手引き等）を用意するために退室した場合は授業態度から減点する。

その他、注意事項

質の高い学習とするために、以下の点について留意する。

1 事前学習

毎回の授業前に、授業範囲のページに目を通す。課題が出た場合は課題を行う。

2 事後学習

毎回の授業内容・確認テストを再確認（復習）し、理解を深める。

3 課題やレポートは、指示された期日までに提出する。

4 遅刻、欠席、早退は事前に連絡する。

関連する主な検定試験：介護福祉士国家試験

キーワード：理念、介護ニーズ、尊厳の保持、自立支援、介護予防、看取り、役割、機能

<授業計画>

第1回	介護福祉の基本となる理念 介護福祉を取り巻く状況【講義】
第2回	介護福祉の基本となる理念 介護福祉を取り巻く状況【講義】
第3回	介護福祉の基本となる理念 介護福祉の歴史【講義】
第4回	介護福祉の基本となる理念 介護福祉の歴史【講義】
第5回	介護福祉の基本となる理念 介護福祉の基本理念【講義】
第6回	介護福祉の基本となる理念 介護福祉の基本理念【講義】
第7回	第1回～第6回【確認テスト】、介護福祉士の役割と機能 社会福祉士及び介護福祉士法【講義】
第8回	介護福祉士の役割と機能 社会福祉士及び介護福祉士法【講義】
第9回	介護福祉士の役割と機能 介護福祉士の活躍の場と役割【講義】
第10回	介護福祉士の役割と機能 介護福祉士の活躍の場と役割【講義】
第11回	介護福祉士の役割と機能 介護福祉士に求められる役割とその養成【講義】
第12回	介護福祉士の役割と機能 介護福祉士に求められる役割とその養成【講義】
第13回	介護福祉士の役割と機能 介護福祉士を支える団体【講義】
第14回	第8回～第13回【確認テスト】、まとめ
第15回	まとめ【筆記試験・解説】

※ 授業計画は状況により変更する場合がある。